

平成22年度第2回鳥獣保護管理小委員会

(有)伊佐愛林 (鹿児島県) 説明資料

伊佐愛林有限会社概要

概要

会社名	伊佐愛林有限会社
所在地	〒895-2511
所在地	鹿児島県伊佐市大口里 3003
電話番号	0995-22-6369
会社設立	昭和53年4月1日
出資金	3,760,000 円
役員構成	代表取締役 今吉信一 取締役 2名
職員数	22名

年代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
人数	3	3	4	8	3	1

事業内容	素材生産・造林業・その他（特用販売）
森林施業委託面積	339.63ha
森林施業委託者数	104名

施設等の内容

① 既存施設の内容

事務所敷地面積	289.82㎡(里3003)
事務所	140.36㎡(里3003)
土場	1,980.00㎡(田代899-1)
倉庫	990.00㎡(田代898)

② 保有機械

機械名	規格	台数	
ハーベスタ	0.55 m ³	1	
スイングヤーダ	0.45 m ³	1	
フォワーダ	6t	2	
フォダーダ	10t	1	キャリーダンプ改良
グラップル	0.45 m ³	2	
ザウルスロボ	0.45 m ³	1	
スキッダ	3t	1	
ブレーカーのみ		1	
集材機		2	
ハーベスタ	0.6 m ³	1	リース
スイングヤーダ	0.45 m ³	1	リース
ザウルスロボ	0.45 m ³	2	リース
グラップル	0.2 m ³	1	リース
クレーン付トラック	10t	1	リース

鳥獣(シカ)被害の現状

伊佐市周辺の歴史

南九州に紫尾山系を位置し、以前からシカの生息地として確認していた。

昭和 60 年あたりから活動範囲が広がり始め(糞で確認)、伊佐市が盆地であり、ドーナツ状に生息数が増えだし、ほぼ一周している。

要因

林野率が 71.4%を占めているが、国有林率が 46.1%と高く、戦後の高度成長期の流れに沿って広葉樹林が伐採され、人工林(主にヒノキを植栽)が急激に増加し、鳥獣等の食べ物が減少したことが生息地が人里近くまで下りたこと、また天敵がいないことから増加の要因と考えられる。

現状

樹皮を食害するのではなく、角磨きの行為がヒノキ等の樹皮を剥ぐ行為である。

以前に食害を受けた立木はそこから腐食が始まり、強風が強いときには根元付近から倒木しているものもある。

今回提出した写真は最近になって被害を受けたもので、樹齢 12 年ほどである。

全体の被害状況としては約 5 割程度(植栽本数)が被害を受けている。

農業環境も農産物の食害が近年増え始め、従事者が高齢化している状況下にある。

対策

植栽直後 枝葉等で隠すように植えると被害が少なくなる。

下刈事業 ムレを防ぐ程度に刈り払い、造林木の直近の雑幹木は残すようにする。

間伐事業 伐倒した材を将来有用木となるような根元に積み上げる(3,000 本～600 本程度)

参考

主にヒノキに被害が多い。

イヌマキ・センダン・クスノキは食害の実態がない。

狩猟者が高齢化し増頭率に比べ捕獲数が少ない。

捕獲したシカの肉の需要が少ないことから狩猟者が捕獲を好まない。

提 案

メスシカを生きのまま捕獲し、避妊の処置をして野に放し、受胎出来ないようにしてはどうか。

樹木被害状況

(鹿児島県伊佐市大口小木原 十層)

